

わたしの好きな よこい

No.144

花の好きな私は、以前畑であった土地に芝桜、水仙、紫つつじ、あじさいなど、いろいろな植物を植えて季節の移ろいを楽しんでおります。（上平・下小路）



なかでも、除草作業の手間を省くため、グラウンドカバー（植物で地面や壁を覆うこと）として植えた芝桜は、今年で五年目を迎えます。満開時には折原の新緑をバックに鮮やかなピンク色が映え、その中を散歩していると、とても楽しく、明るい気分になり、芝桜から沢山の「元気」をもらうことができます。



<ドリームガーデン>

皆さんにもこの「元気」をおすそ分けしたくて、昨年「ドリームガーデン」と称し、桜の花が咲き始める頃から五月の連休後まで庭を皆さんに開放しております。

自然の豊かな所ゆえ、うぐいす、めじろなど野鳥が多く、バードウォッチングも楽しむことができます。皆さん、近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。



わが町の 達人 植物の分類と生態 No.13



高橋重男さん（末野4）

30年ほど前、町史の植物編が出版されました。市町村史に植物編を加える先駆けでしたので、県内外の多くの自治体から注文が集まり、再版するほど好評になりました。

植物編を作るための調査で、私は故落合良一さんと日本水の源泉わきのがけをよじ登りました。すると、中段の岩肌に沖繩などに自生するム

このコーナーは、「寄居生活学の達人」として町に登録をいただいている町民講師の方々を中心に、そのうちくちや技術、体験などを町民の皆さんに紹介するコーナーです。

ギランを見つけました。さらに登ると岩の割れ目に、亜高山帯に分布するイワウサギシダや、高原に一般的なウスユキソウとニッコウキスゲが生えていました。このほか、風布は神奈川県の海岸などに見られるウラボシやコンダの北限ともなっています。

ボーリングと花粉分析によって、昔の植生と気象が明らかになったことから、寄居にこのような植物が見られる理由が判明しました。

今から一万二千年前の氷河期の終わり頃、関東平野の植生は戦場ヶ原とほぼ同じであり、寄居も寒系植物で被われていました。その後、徐々に気温が上昇し、五千五百年前の縄文初期は今よりも平均気温が2度も高く、南方系植物が北上してきました。少数の寒系植物はこの暑さに耐えて生き残り、多くの南方系植物

はその後の気温低下で、南へ退いたものと思われます。

町教育委員会は現在、鉢形地内でモウセンゴケの保護増殖を行っています。モウセンゴケは貧栄養の湿地に生え、葉の腺毛で昆虫を捕らえて栄養としています。除草剤の普及とともに多くが消滅したため、県内での自生地は寄居のみとなった貴重な植物なのです。

私は町の人たちと山を歩いて植物の話をする時に、緑豊かなこの町に生まれたことを幸せに思います。そもそも、緑色植物は空気を浄化するなど、生態系を支える生産者となる重要な存在なのです。私はこれからも、寄居町文化財保護審議会委員およびNPO埼玉県絶滅危惧植物調査団役員としてこれらの調査に力を入れていきたいと思います。



ムギラン



モウセンゴケ